

京都ノートルダム女子大学
2013（平成25）年度 科研費研究成果発表会

- ◇ 日時：2013(平成 25) 年9月26日（木） 13：00～14：30
- ◇ 会場：京都ノートルダム女子大学 ユニソン会館 大会議室

プログラム

1. がん患者のスピリチュアルペインと心理的援助

ーグループ療法を用いてー

河瀬 雅紀（心理学部 教授）

2. 東西文化を架橋するロバート・モリソンの

翻訳活動に関する書誌学的研究

朱 鳳（人間文化学部 准教授）

3. スコットランド啓蒙の時代の古都エディンバラにおける

銅板画肖像画

服部 昭郎（人間文化学部 元教授）

司会：須川 いずみ 図書館情報センター長

◇ 主 催：京都ノートルダム女子大学 研究・情報推進課

◇ 連絡先：TEL：075-706-3789

E-mail：kikaku@notredame.ac.jp

2013(平成25)年度 科研費研究成果発表会

会場：京都ノートルダム女子大学 ユニソン会館 3階 大会議室

河瀬 雅紀 (心理学部 教授)

◇ 科学研究費補助金 (基盤研究(C) 採択 (研究期間 平成22年度～平成24年度))

がん患者のスピリチュアルペインと心理的援助ーグループ療法を用いてー

がんの罹患は自己存在の前提を揺るがせ、生き方や価値観を根底から問い直す事態である。そのため、がん患者は、恐怖や孤独、絶望、抑うつなどから社会的な役割・機能を果たせず不適応状態に陥ることもある。そこで、苦悩に向き合いながらも、日常活動に建設的に取り組めるようがん患者を支援するため、グループ療法を用いた。すなわち、再発や死の不安、過去から現在までの他者との関係の意味や質の変化など実存的問題に焦点をあてたグループ療法プログラムを初発乳がん患者に実施した。

グループ療法は週1回・連続5週の短期プログラムにも関わらず、グループ療法中のがん患者の発言には質的な変化が認められた。この変化は、スピリチュアルQOL尺度 (SELT-M) の下位尺度得点での改善など評価尺度を用いた量的調査によっても確認できた。特に絶望感が高い群で SELT-M の「全体的 QOL」が有意に改善し、これら一群において本プログラムの介入効果が期待できることが示唆された。



朱 鳳 (人間文化学部 准教授)

◇ 科学研究費補助金 (基盤研究(C) 採択 (研究期間 平成22年度～平成24年度))

東西文化を架橋するロバート・モリソンの翻訳活動に関する書誌学的研究

本研究は3年の研究期間において、主にロンドン大学 SOAS 校及び大英図書館に所蔵している、最初に来華したプロテスタント宣教師ロバート・モリソンの書簡と日誌の調査と整理を行ったものである。

これらの原典資料を通して、彼の英華字典編集と聖書翻訳活動における中国語観、翻訳観を明らかにすることができた。また彼の日誌と書簡の研究によって彼の東西文化交流における役割を見出すことができた。

今日の日中両言語における訳語の共有は、19世紀初頭のモリソンの翻訳活動に影響される部分が多いことも文献資料調査によって確認された。



服部 昭郎 (人間文化学部 元教授)

◇ 科学研究費補助金 (基盤研究(C) 採択 (研究期間 平成22年度～平成24年度))

スコットランド啓蒙の時代の古都エディンバラにおける銅版画肖像画

スコットランドの歴史の上で、18世紀後半はスコットランド啓蒙と呼ばれる特別な時代です。学問や芸術の分野でヨーロッパを代表する幾多の天才を輩出、古都エディンバラは文字通り「現代のアテネ」となりました。

自信に満ち、高揚するスコットランド啓蒙の精神はレイバーンなどによって描かれた時代を代表する紳士淑女の肖像画によくあらわれています。

一方レイバーンと同じ啓蒙の時代同じ古都エディンバラに暮らし、時に同じ人物の肖像を描きながら、典雅で気品あふれるレイバーンの画風とはまったく異質な銅版画肖像画を残した画家たちについてはこれまであまり知られることがありませんでした。彼らの銅版画肖像画の特徴をひと言で言えば、画家それぞれが独特に持つ諷刺精神です。彼らの残したカリカチュアの中にこれまで我々が一般的に抱いているスコットランド啓蒙の姿とはいささか異なる世相や人物を垣間みることができます。

